

学校教育目標	家庭、地域、社会で豊かな生活ができるように ○わかって動ける力を身につけます。 (知) ⇒ 知識・技能 ○適切なコミュニケーション力を身につけます。 (徳、公、開) ⇒ 思考力・判断力・表現力 ○心身ともに健康・安全に生活する力を身につけます。 (体) ・学校教育目標を達成するための学習の中で、学びに向かう力・人間性等を育成します。 ・学校教育目標を達成するために各学部において重点目標を設定し、児童生徒の実態に合わせた学習を行います。						

学校概要	創立 45 周年	学校長 中川 琴似	副校長 小田紀子・金井大	2 学期制	指定地域等	栄区、戸塚区、泉区	
	児童・生徒数:	184 人	幼稚部:	人	小学部: 84 人	中学部: 52 人	高等部: 48 人

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力
わかって動ける力 適切なコミュニケーション力 心身ともに健康・安全に生活する力

育成を目指す資質・能力を踏まえた 「12年間で育てる子ども像」と具体的取組
家庭、地域、社会で豊かな生活ができるように ○自ら考え行動できる人 ○自らコミュニケーションをとって、社会や地域とかかわる人 ○自ら体を動かし健康・安全に生活できる人 を育てます。 令和6年度の具体的取組 ・(ICT推進モデル校)コミュニケーションと学習活動の充実を図るためのICT活用、実態に応じた指導内容の実践。 ・学校教育目標や学部重点目標を基にした授業作りと個別の教育支援計画、指導計画に沿った指導支援の実践。 ・中堅研修を兼ねた特別支援初担当教職員への校内サポート体制作りと双方向の人材育成。

中期取組目標	A適切な指導 ・学校教育目標や学部重点目標などを基にした授業づくりに取り組み、計画的な授業実践を行います。 ・コミュニケーションと学習活動の充実を図るため、ICT推進モデル校として実態に応じた指導内容を検討、実施します。 B効率的な組織運営 ・グループウェアやオンライン会議等活用した組織運営を図ります。 C安全な教育環境 ・安心して学習に取り組めるように、様々な想定に対応した安全管理の徹底を図ります。

重点取組分野		具体的取組
知	確かな学力	①定期的に実施するカリキュラム・マネジメント会議で、授業での児童生徒の様子を共有し、単元ごとに立てた目標と学校教育目標、学部重点目標との系統性、個別の支援計画・指導計画の目標、支援の手立てとの整合性を振り返り、授業改善を行う。②学習活動の充実を図るため、実態に応じた指導内容を検討する。実践事例を共有しながら、活用シートにタブレット端末活用の成果と課題を明記する。ICT活用に関する研修の企画・運営を行う。
担当	教育課程推進部、教育研究部	
徳	交流教育	①小学部と中学部において副学籍交流が円滑にすすむよう、取りまとめを行っていく。②学校間交流がより実りのある内容となるよう各学部、相手校と連携し、計画的・継続的な取組となるよう協議しながらすすめていく。
担当	人権・交流教育部	
体	健やかな体	①一人ひとりの子どもの実態に合わせた「体力づくり」に取り組む。②健康状態の把握に努め、様々な感染症等の予防や拡大防止に取り組む。③健康に良い食事や食育についての情報提供や食材体験など食育にかかわる行事を行い、その取組の様子を伝える。
担当	体育、保健体育・保健部・給食部	
公開	地域連携	①地域主催のイベントへの参加や屋上プール開放の実施を持続可能な範囲で工夫して行い、本校の児童生徒の学習活動や様子について地域へ発信する。②学校施設開放利用団体の公平性を保ち、本校卒業生を含めた余暇活動に貢献する。
担当	地域支援部	
いじめへの対応		①いじめ防止対策委員会では、いじめに限らず学校の人的関係で困難や孤立を感じている子どもの把握と保護者との連携、支援策の確認、経過確認を行い、校内で共有する。②子どもの人権を守る、権利を尊重する観点から、研修に取り組み、教職員の人権意識向上を図っていく。
担当	いじめ防止対策委	
人材育成・組織運営(働き方)		①教育実習生やインターンシップ生等の教職員を目指す学生の育成に努める。②メンター研修の自律的取組や年次研取組を継続し、専門性の向上を図る。③中堅による特別支援初担当者への校内サポートの企画。④グループウェアやICT機器を活用した会議を行い、時間短縮を図りながら、効率的な組織運営を目指す。
担当	教務部	
センター的機能の取組		①横浜型センター的機能として地域の小中学校の学校支援を行い、地域の特別支援教育の普及、発展、充実に努める。②各種連絡会、研究会等に参加し、関係機関や学校間との連携を深めるとともに、地域における特別支援教育の理解促進や充実を図る。
担当	特別支援教育コーディネーター	
安全管理		①非常時の対応について保護者に周知する。避難訓練、緊急時下校訓練を実施する。また、防災倉庫内の非常用物資を計画的に入れ替える。 ②学校生活上の様々な場面を想定した実践的な訓練を行うことで日頃から安全意識を高め、全教職員の共通理解のもと連携を図りながら各自が様々な状況の中でも適切な行動に結びつけられるようにする。
担当	防災安全・生活安全部	
地域学校協働活動		①学校周辺地域の方に本校への理解を深めていただくための情報発信を行うとともに、学校ホームページを活用し学習の様子等を発信する。②学校運営協議会で年間テーマを掲げるとともに、委員による授業や行事の参観の機会を設け、学校関係者評価としての意見をより良い学校づくりにつなげていく。
担当	学校運営協議会事務局	
担当		

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
交流教育	①小学部と中学部において副学籍交流が円滑にすすむよう、取りまとめを行っていく。②学校間交流がより実りのある内容となるよう各学部、相手校と連携し、計画的・継続的な取組となるよう協議しながらすすめていく。
担当	人権・交流教育部

豊かな心に関わる本校の状況	今年度の目標
<p><結果> 学校教育活動に関する保護者アンケートの結果より、交流教育への取組については、満足できるが39%、やや満足できるが40%となった。自由記述の中で「副学籍交流に今年初めて参加させてもらい、貴重な経験になりました」「昨年副学籍交流を行い知人もいたせいかな本人も楽しく過ごしています」という声を聞いた。一方で、「地域の学校の子ども達の理解が進んでいない為不安しい」「副学籍交流は調整が難しいと思いますが、一緒に何か行うような参加型でない、お客さん状態で終わってしまい、なかなか距離は縮まらないような気がします」とのご意見をいただいた。</p> <p><考察> 満足・やや満足は合計は昨年度より高い評価となった。4年ぶりに対面にて実施することができた学校間交流では、相手校の同学年の子どもたちが来校し、自己紹介をし、一緒に集会活動を行いながら、交流を深めることができた。毎年の交流を積み重ねることで、相互理解が深まっていくと考えている。副学籍交流も同様で、相手校と連絡を密にとりながら、参加した児童生徒にとって安心して、楽しく充実した交流学習になるようしたい。センター的機能の取組にも関連する。地域の学校と本校職員が、定期的に協議会を通して子どもたちの心を育て、職員間の理解を深める研修などを今後も継続していききたい。</p>	<p>・副学籍交流を円滑にすすめる。 ・地域の近隣校との学校間交流が、互いの学校にとって、より実りある内容で計画的・継続的に進めるようにする。</p>
	<p>目標を実現するための具体的行動プラン</p> <p>通年の取組として</p> <p>・小・中・高児童生徒が居住地の小学校や中学校へ行き、一緒に学習する副学籍交流では、学習活動に参加して交流することによって地域社会とのつながりもち、子どもたち同士の相互理解が深まるようにする。</p> <p>上半期</p> <p>・近隣校との学校間交流では、小学部は本郷台小学校、本郷小中学校個別支援学級、中学部は本郷中学校、高等部は横浜栄高校との充実した交流活動になるよう取り組む。</p> <p>下半期</p> <p>上半期と同じ(通年の取組)</p>

学校教育目標	
家庭、地域、社会で豊かな生活ができるように ○わかって動ける力を身につける。(知)⇒知識・技能 ○適切なコミュニケーション力を身につける。(徳、公、開)⇒思考力・判断力・表現力 ○心身ともに健康・安全に生活する力を身につける。(体) ・学校教育目標を達成するための学習の中で、学びに向かう力・人間性等を育成します。 ・学校教育目標を達成するために各学部において重点目標を設定し、児童生徒の実態に合わせた学習を行います。	
教育課程全体で育成を目指す資質・能力	具体化した資質・能力
わかって動ける力 適切なコミュニケーション力 心身ともに健康・安全に生活する力	○自ら考え行動できる ○自らコミュニケーションをとって、社会や地域とかかわる ○自ら体を動かし健康・安全に生活できる
中期取組目標	
A適切な指導 ・学校教育目標や学部重点目標などを基にした授業づくりに取り組み、計画的な授業実践を行います。 ・コミュニケーションと学習活動の充実を図るため、ICT推進モデル校として実態に応じた指導内容を検討、実施します。 B効率的な組織運営 ・グループウェアやオンライン会議等活用した組織運営を図ります。 C安全な教育環境 ・安心して学習に取り組めるように、様々な想定に対応した安全管理の徹底を図ります。	

学力向上アクションプラン

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	①定期的を実施するカリキュラム・マネジメント会議で、授業での児童生徒の様子を共有し、単元ごとに立てた目標と学校教育目標、学部重点目標との系統性、個別の支援計画・指導計画の目標、支援の手立てとの整合性を振り返り、授業改善を行う。②学習活動の充実を図るため、実態に応じた指導内容を検討する。実践事例を共有しながら、活用シートにタブレット端末活用成果と課題を明記する。ICT活用に関する研修の企画・運営を行う。
担当	教育課程推進部、教育研究部

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①一人ひとりの子どもの実態に合わせた「体力づくり」に取り組む。②健康状態の把握に努め、様々な感染症等の予防や拡大防止に取り組む。③健康に良い食事や食育についての情報提供や食材体験など食育にかかわる行事を行い、その取組の様子を伝える。
担当	体育、保健体育、保健部、給食部

学力向上に関わる本校の状況	今年度の目標
<p><結果> 学校教育活動に関する保護者アンケートの結果より、確かな学力への取組については、満足できるが60%、やや満足できるが31%となった。自由記述の中で「字が丁寧に書けるようになってきました」「本人に合った内容又は親が希望する形で個別課題を進めてくれた」というご意見をいただいた。ICTを活用した教育については「タブレットなど実践どのように活用されているのか分かりませんが、コミュニケーションツールとして、また、就労でも活用できると良いなと思います」「新しい学部では、タブレットを利用した学習(意思伝達等)が減ったように感じる」とのご意見をいただいた。</p> <p><考察> 「満足・やや満足」の評価が90%を超えましたが、「やや満足できない・満足できない・わからない」を合わせた約9%となり、今後日々の学習や単元ごとの振り返りを大切にしながら、授業づくりや指導の改善に努めていきたい。また、学習を通しての力を身に付けることができたか、面談や日々の記録を通して、保護者の皆様へより具体的に伝えていきたい。ICT機器を使った学習に関しては、コミュニケーションツールとしての活用も含め、卒業後の生活を想定しながら、個々のニーズについて本人と保護者と共に考え、有効活用ができるよう工夫をしたい。</p>	<p>・観点別目標の振り返りを中心に学習活動のPDCAサイクルを行い、授業、指導の充実を図る。 ・個や集団に合わせてICT機器を活用し、習熟活動の充実を図る。</p>
	<p>目標を実現するための具体的行動プラン</p> <p>通年の取組として</p> <p>・カリマネ会議を定期的に設け、観点別目標の振り返りを中心にPDCAサイクルを行うことで指導や授業の充実を図る。</p> <p>上半期</p> <p>・タブレット端末を使用した活動実践を積み重ね、共有しながら、個の児童生徒のコミュニケーションツールとしての活用について学びを深める。 ・ICT機器の効果的な活用に関する研修を行う。</p> <p>下半期</p> <p>上半期と同じ(通年の取組)</p>

健やかな体に関わる本校の状況	今年度の目標
<p><結果> 学校教育活動に関する保護者アンケートの結果より、健やかな体への取組については、満足できるが72%、やや満足できるが25%となった。自由記述の中で「毎日身体を動かす時間があり、運動できている」「健全な心身の育成を図るとよい」「食事、運動もしつかり取り組んで下さっていると思います」「卒業も続けられる運動に興味をもち、持続できると良いな」と思っています。「プールが大好きで毎週楽しみだったと思います」「プール授業の回数が少なかった」「何でか酸っぱい口に入れるため冬にロウワイルスに毎年なってしまう」などのご意見をいただいた。</p> <p><考察> 満足・やや満足は合計が97%となった。コロナ感染症予防対策により、手指消毒やマスクの着が任意となったが、「引き続き手洗いの励みや感染症への適切な対策を行い、児童生徒、職員が日頃より健康に過ごせるように努めたい。今年度は夏の猛暑のため、屋外での活動が制限され、水泳学習も中止となる機会があった。熱中症対策を十分にとりながら、運動の機会を確保できるよう、時期・時間帯や場所の調整を検討していく。</p>	<p>・実態に合わせた「体力づくり」に取り組む。 ・病気や感染症等の予防や拡大防止に努める。 ・食育にかかわる行事を計画・運営し、その様子や食育に関する情報を発信する。</p>
	<p>目標を実現するための具体的行動プラン</p> <p>通年の取組として</p> <p>・心肺機能の向上を目指し、時間や距離を設定しての歩行やランニング等の有酸素運動に年間を通して継続的に取り組む。また、安定した歩行や走行を身につけるために実態に合わせて場や時間を工夫し、筋力の保持増進に取り組む。</p> <p>上半期</p> <p>・日々の手洗い指導を行い、年間計画の中で手洗いを意識する取組を行う。熱中症予防の取組として、児童生徒の休養時間の確保や水分補給の促し等の他、運動指針の判断基準の提示やコンディショニング放送を行い、注意喚起を行う。様々な感染症への職員研修を行い、予防や感染拡大防止に努める。</p> <p>下半期</p> <p>上半期と同じ(通年の取組)</p>